

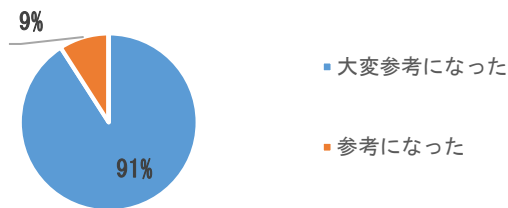
「授業づくり支援」の利用者アンケート結果報告

今年度より始めました「授業づくり支援」制度はおかげさまで、この半年だけで 15 名の先生に本制度をご利用いただきました。

A 型（授業見学とフィードバック）	8 名
B 型（相談のみ）	6 名
A・B 型（A と B の両方）	2 名

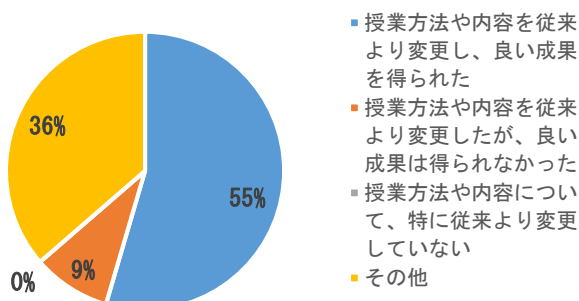
制度の有用性を検証するために、支援制度をご利用いただいた先生にアンケート調査をさせていただきました（回答者 11 名）。今回はその結果のご報告です。

Q1. 支援内容は



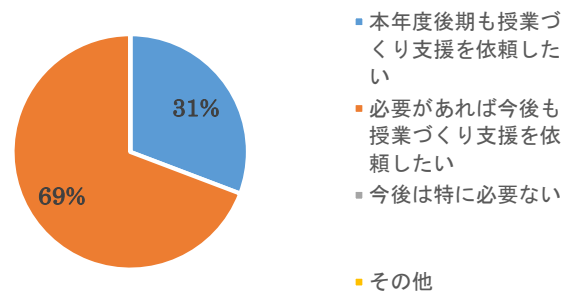
※質問項目は「大変参考になった～全く参考にならなかった」の 6 件法にしています。

Q2. 支援の結果について



※その他については、「後期の授業で活用したい」などのご意見をいただきました。

Q3. 今後の支援について



Q4. 支援を受けた感想（一部抜粋）

- ・発表中、すべての学生が集中して発表や聴講できるようなアドバイスをしていただいたので、講義時間を効率よく活用できたと思います。
- ・大人数科目でも学生からの発言を引き出すことができることを学べて、とても有り難かったです。
- ・授業への干渉だと考える人もあるかも知れませんが、そうではなく、授業者の意図する教育行為をより効果的に実現する手段なのだと思います。
- ・いくつかの点で変更をおこなったが、必ずしもよい結果にはつながらなかった。グループでのディスカッションを活発に、全員参加で進めるのは、かなり難しいことを実感させられた。
- ・もう忘れかけていた基本的な部分から新しい方法の示唆まで得ることができて大変満足しております。後期もお願いしたいと考えています。

以上の通り、ご利用いただいた多くの先生方から好評をいただくことができました。しかし、実際の授業に活用してみると思った通りにならなかったといったご意見もいただいています。ご要望に応じて継続的に支援させていただく必要があることがわかりました。後期（9月～）も引き続き支援依頼を受け付けておりますので、ご希望の方は、西野までお気軽にご連絡ください。（nishino-ta@tachibana-u.ac.jp）

シリーズ「授業の小技」第1回

本号より、授業の小技を紹介していきます。授業の小技ではありません。教育サロンをさせていただいたり、先生方とお話をさせていただく中で、すぐに授業で使えるような、ちょっとしたコツが知りたいという声をよくお聞きします。根本的な授業改善にはつながらないかもしれませんが、私語を少なくしたり、授業時間を効率的に活用したり、グループワークを上手く進めるための小さなヒントになれば幸いです。

(1) 座席指定

大学生というと自由座席というイメージがありますが、結果的に友達同士で近くに座り、私語を助長してしまう危険性があります（そういう学生は特に後方に座りがちです）。このような状況を防ぐために、高校までと同様に座席指定する方法があります。学籍番号で着席させれば、回収物の回収や返却も効率的に行えます。また、最初は学籍番号順でも、15回の真ん中（7講目など）で席替えをする方法もあります。座席に番号を振り、学生に番号がかかれたくじ引きを引かせて着席させます。この場合、回収物の回収や返却が困難になると思われがちですが、列ごとに回収し、列ごとに返却することで効率化することができます。

座席指定のデメリットは前で聞きたいという学生（たとえば視力が低い学生など）が後ろに座らされてしまう可能性があることです。こうした問題発生を予防するために、はじめに前方に座りたい学生の希望をとり、彼らを最初に前方指定席に座らせると良いでしょう。

(2) 復習小テスト

授業内容を学生が理解できているかどうかは重要な問題です。いかに学生が集中して聞いているように見えても、実際は内容を覚えていなかったり、問題を解くことができなかつたりします。そこで、お勧めしたいのが「復習小テスト」です。授業の最初に3~5分程度で解ける復習問題を提示します。○×問題や選択肢問題が良いでしょう。問題を個人で解いた後、隣近所の学生と答えについて相談する時間を与え、最後に教員から正答を伝えます。学生が問題を解いている間に、学生の回答を見て回り、どの問題がよく解けているか、あるいは間違っているかを確認して回ります。そうすることで、正答を淡々と伝えるのではなく、力点を置くべきところを明確にして伝えることができるようになります。また前回休んでしまった学生は、前回の重要なポイントを理解することができ、その日の授業に最低限必要な知識を身につけてから授業に臨むことができるようになります。

復習小テストで出来が悪かった問題をアレンジして中間試験、期末試験などで出すことで彼らの理解が深まったかどうかをさらに確認することも可能です。

(3) シャトルカード

学生が授業についてどのような感想をもったのかを確認する方法として、「シャトルカード」という方法があります。これは毎回授業終了時に数分時間を取り、授業の感想等について学生に書かせて回収し、次回返却するものです。学生と教員の間を行ったり来たりすることから「シャトル」という名称がついています。A3の裏表にあらかじめ15コマ分のマスを用意し、15回分の学びが一覧できるようにすると良いでしょう。

回収したものを読んで教員のコメントを付けて返すことができれば理想的です。もしコメントを一人ひとりに返すことが難しければ、何名かの感想の一部を抜粋して全体に向けて紹介し、全体に向けて教員のコメントを伝えるにとどめても良いでしょう。他の学生の意見に学ぶと同時に、教員に読んでもらっている実感が湧くため、真剣にコメントを書く学生が増えます。

シャトルカード			
科目名	学籍番号	氏名	所属
講数	日付	感想、学び、疑問、提案等	教員コメント
第1講	9月21日		
第2講	9月28日		
第3講	10月5日		
第4講	10月12日		
第5講	10月19日		
第6講	10月26日		
第7講	11月2日		
第8講	11月9日		